

氏名	近 藤 穰		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	甲 第 3 7 5 号		
学位授与の日付	昭和48年3月31日		
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	日本人胎児における中耳発生に関する研究 —主としてアブミ骨について—		
論文審査委員	教授 大内 弘	教授 大塚長康	教授 新見嘉兵衛

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、先天性伝音系聴器奇形患者の聴力を回復することが可能になった。手術を効果的に行う為には、聴器の正常な発育史を知ることが必要となる。その為、著者は胎生第8週より11週迄の胎児10胎を用い、連続切片を作成し、観察した。

結果は次の通りであった。

- 1) Meckel 氏軟骨の方がツチ骨、キヌタ骨細胞群より早く発現したと推定される。また、ツチ骨とキヌタ骨は同じ時期に発生したと推定される。
- 2) ツチ骨、キヌタ骨とアブミ骨は、異なる原基から発生したものと推定される。また、ツチ骨、キヌタ骨の方が、アブミ骨より早く発生したと思われる。
- 3) a. アブミ骨の脚と足板部の中耳側層とは、同じ原基から発生すると推定される。  
b. アブミ骨足板部の前庭側層とOtic capsule 前庭窓縁は、同じ原基から発生すると推定される。  
c. 胎生11週まででは、いまだIncudo stapedial joint は形成されていなかった。
- 4) アブミ骨の脚は、足板部より早く発生する。
- 5) アブミ骨動脈は、胎生令が大となると、次第に細くなり遂に消失する。
- 6) 胎生9週で、すでに、アブミ骨は、リング状の軟骨である。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、耳小骨の初期発生を、従来研究のきわめて少ない人胎児について追及したものであるが、近年行なわれるようになった聴器伝音系奇形患者の手術の基礎資料として重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。